



岩波文庫

32-033-2

中國名詩選

(中)

松枝茂夫編

岩波書店

中国名詩選(中) [全3冊]

1984年9月17日 第1刷発行©

1985年4月22日 第2刷発行

定価 500 円

編 者 まつ えだ しげ お
 松 枝 茂 夫

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

発 行 所 株式会社 岩 波 書 店

電話 03-265-4111

振替 東京 6-26240

印刷・三陽社 製本・桂川製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan

岩波文庫

32-033-2

中国名詩選

(中)

松枝茂夫編



岩波書店

凡 例

一、中国の詩歌は『詩経』以来今日まで、およそ三千年におよぶ豪華絢爛たる歴史をもつています。それは質においても量においても世界に冠たるものといつてよいでしょう。

一、この書はそのなかから最もすぐれた愛誦するに足る作品を選んで、これに簡単な訳注を添えたものです。

一、作品は時代順・作家別に排列し、それぞれの作家の略伝を付しました。時代順・作家別とはいつても、たとえば『詩経』とか漢代歌謡などのように、作者の名も制作年代もわからないものは、信頼すべきテキストの順に拠りました。

一、詩の選択に当たっては、あまり長篇のものや、初学者に難解なものは原則として割愛しました。それでもどうしても避けて通れないものは、やむをえず部分的に抄出しました。

一、訳注はなるべく初学者に理解しやすいように平易なことばを使用し、専門的な用語は出来るだけ避けようと心がけました。また詩の解釈については日本・中国の信頼すべき注釈書を参考にして多大の裨益を受けました。一々その旨をしるしてみだりにその美をかすめた無礼を謝すべきですが、この本の性質上、敢えて省かせていただきました。

一、本書は三分冊とし、上巻は『詩経』から漢魏の時代まで、中巻は陶淵明から李白・杜甫の

時代まで、下巻は白居易から近代までとします。全部でおよそ五百首ほどの詩篇が収められるはずです。天上の星の数ほどもあるなかから、僅かこれだけを選びだすということは、到底人間わざで出来ることではありません。非力をかえりみず、敢えてここに蛮勇の大ナタをふるった次第であります。

一、訳注の仕事に協力したのは、安藤陽子、市川宏、大石智良、奥平卓、久米旺生、竹内良雄、立間祥介、丸山松幸、山谷弘之、和田武司、その他の諸君です。しかし最終的には松枝に一切の責任があります。

目次

凡例

解説

..... 一七

晋代の詩(一)——西晋

..... 三

豫章行苦相篇

..... 傅玄 三

嬌女詩(嬌女の詩)

..... 左思 三

情詩

..... 張華 三

赴洛道中作(洛に赴く道中の作)

..... 陸機 三

悼亡詩

..... 潘岳 三

扶風歌(扶風の歌)

..... 劉琨 三

詠史

..... 左思 三

遊仙詩

..... 郭璞 三

晋代の詩(二)——東晋

..... 六一

歸園田居(園田の居に帰る)

三首……陶淵明 三

乞食(食を乞う)

..... 陶淵明 六

移居(居を移す)……………陶淵明 七〇

庚戌歳九月中、於西田穫早稻

(庚戌の歳、九月中、西田に早稻を穫る)

……………陶淵明 七三

飲酒(酒を飲む) 三首……………陶淵明 七五

責子(子を責む)……………陶淵明 八〇

南北朝時代の詩……………一〇七

〔宋〕

登池上樓(池上の樓に登る)……………謝靈運 一〇八

過始寧墅(始寧の墅を過る)……………謝靈運 一一二

代東門行(東門行に代り)……………鮑照 一二四

代放歌行(放歌行に代り)……………鮑照 一二八

擬古(古に擬す) 二首……………陶淵明 八三

雜詩 二首……………陶淵明 八六

讀山海經(山海經を讀む) 二首……………陶淵明 八九

挽歌詩(挽歌の詩) 二首……………陶淵明 九三

歸去來辭(歸去來の辭)……………陶淵明 九七

詠史……………鮑照 一二三

擬古……………鮑照 一二三

擬行路難(行路難に擬す) 二首……………鮑照 一二六

梅花落……………鮑照 一二九

〔齊〕

玉階怨ぎよくかいえん……………謝朓しやちよう 一三〇

王孫遊おうそんゆう……………謝朓 一三二

遊東田とうでん（東田に遊ぶ）……………謝朓 一三三

〔梁〕

東飛伯勞歌ひがしと（東に飛ぶ伯勞の歌）……………梁武帝 一三六

別范安成はんあんせい（范安成と別る）……………沈約 一三八

相送あいおく（相送る）……………何遜 一三九

入若耶溪じやくやけい（若耶溪に入る）……………王籍 一四〇

〔陳〕

渡青草湖せいそうこ（青草湖を渡る）……………陰鏗 一四三

閨怨篇けいえんへん……………江綰 一四五

〔北周〕

寄王琳おうりん（王琳に寄す）……………庾信 一四六

金谷聚きんこく（金谷の聚い）……………謝朓 一三四

同王主簿有所思おうしゆぼ（王主簿の「有所思」に同ず）……………謝朓 一三五

詔問山中何所有賦詩以答さんちゆう（山中に何んの有る所ぞと詔問せられ、詩を賦して以て答う）……………陶弘景 一四二

玉樹後庭花……………陳後主 一四七

重別周尚書かさ（重ねて周尚書に別る）……………庾信 一五〇

重別周尚書（重ねて周尚書に別る）……………庾信 一五〇

梅花……………庾信 一五二

擬詠懷(詠懷に擬す) 二首……………庾信 一五三

〔隋〕

人日思歸(人日 帰るを思ふ)……………薛道衡 一五七

送別……………無名氏 一五六

渡河北(河北に渡る)……………王褒 一五五

南北朝時代の歌謡……………一六一

〔南朝の歌謡〕

子夜歌 十三首……………無名氏 一六三

讀曲歌 七首……………無名氏 一八〇

子夜四時歌(子夜四時の歌)十首……………無名氏 一七二

孟珠……………無名氏 一八五

大子夜歌……………無名氏 一七六

碧玉歌(碧玉の歌)……………無名氏 一八六

華山畿 三首……………無名氏 一七六

巴東三峽歌(巴東三峽の歌)二首……………無名氏 一八七

〔北朝の歌謡〕

企喻歌 二首……………無名氏 一八八

瑯琊王歌(瑯琊王の歌)……………無名氏 一八九

折楊柳歌 三首 無名氏 一九〇

敕勒歌(敕勒の歌) 無名氏 一九五

幽州馬客吟歌(幽州の馬客の吟歌) 無名氏 一九三

木蘭詩(木蘭の詩) 無名氏 一九六

隴頭歌 三首 無名氏 一九三

唐代の詩(一)——初唐 二〇五

述懷 魏徵 二〇六

和晉陵陸丞早春遊望(晉陵の陸丞の「早春遊望」に和す) 杜審言 二〇〇

野望(野の望め) 王績 二〇九

釋疾文三歌 盧照鄰 二一〇

古意呈補闕喬知之(古意、補闕の喬知之に呈す) 沈佺期 二二三

易水送別 駱賓王 二二四

送杜少府之任蜀川(杜少府の任に蜀川に之くを送る) 王勃 二二五

題大庾嶺北驛(大庾嶺の北驛に題す) 宋之問 二三四

滕王閣 王勃 二二七

從軍行 楊炯 二二八

代悲白頭翁(白頭を悲しむ翁に代つて) 劉希夷 二三六

春江花月夜(春江花月の夜)……………張若虛 二三〇
登幽州臺歌(幽州台に登る歌)……………陳子昂 二三五

詩 二首……………王梵志 二三七
詩 一首……………寒山 二三九

唐代の詩(二)——盛唐……………二四一

題袁氏別業(袁氏の別業に題す)……………賀知章 二四二

宿建德江(建德江に宿る)……………孟浩然 二五〇

回鄉偶書(郷に回りて偶と書す)……………賀知章 二四三

春曉……………孟浩然 二五〇

醉中作(醉中の作)……………張説 二四四

涼州詞……………王翰 二五一

照鏡見白髮(鏡に照らして白髮を見る)……………張九齡 二四五

邊詞……………張敬忠 二五三

登鶴鵲樓(鶴雀樓に登る)……………王之渙 二四六

次北固山下(北固山下に次る)……………王濟 二五四

涼州詞……………王之渙 二四七

黃鶴樓……………崔顥 二五五

望洞庭湖贈張丞相(洞庭湖を望んで張丞相に贈る)……………孟浩然 二四八

從軍行……………王昌齡 二五七

望洞庭湖贈張丞相(洞庭湖を望んで張丞相に贈る)……………孟浩然 二四八

出塞……………王昌齡 二五八

芙蓉樓送辛漸(芙蓉樓にて辛漸

芙蓉樓送辛漸(芙蓉樓にて辛漸

を送る)……………王昌齡 二五九

閨怨……………王昌齡 二六〇

西宮春怨……………王昌齡 二六一

西宮秋怨……………王昌齡 二六二

長信秋詞……………王昌齡 二六三

九月九日憶山東兄弟(九月九日

山東の兄弟を憶う)……………王維 二六四

鹿柴……………王維 二六六

竹里館……………王維 二六六

鳥鳴澗……………王維 二六七

送元二使安西(元二の安西に使

いするを送る)……………王維 二六八

使至塞上(使いして塞上に至る)……………王維 二六九

相思……………王維 二七一

送別……………王維 二七二

送秘書晁監還日本國(秘書晁監の

日本國に還るを送る)……………王維 二七三

少年行……………王維 二七五

雜詩 一首……………王維 二七六

峨眉山月歌(峨眉山月の歌)……………李白 二七七

望廬山瀑布(廬山の瀑布を望む)……………李白 二七九

長干行……………李白 二八〇

靜夜思……………李白 二八四

客中行……………李白 二八五

黃鶴樓送孟浩然之廣陵(黃鶴樓に

て孟浩然の広陵に之くを送る)……………李白 二八六

襄陽歌(襄陽の歌)……………李白 二八七

春夜洛城聞笛(春夜洛城に笛を

聞く) 李白 二九二

子夜吳歌 李白 二九三

望天門山(天門山を望む) 李白 二九四

蘇臺覽古 李白 二九六

越中覽古 李白 二九七

蜀道難 李白 二九八

玉階怨 李白 三〇五

月下獨酌(月下の獨酌) 李白 三〇六

將進酒 李白 三〇八

聞王昌齡左遷龍標遙有此寄

(王昌齡の龍標へ左遷せらるるを聞き遙かに此の寄有り) 李白 三一

山中問答 李白 三三

山中與幽人對酌(山中にて幽人と

對酌す) 李白 三三四

宣州謝朓樓餞別校書叔雲(宣州の

謝朓の樓にて校書叔雲に餞別す) 李白 三五

獨坐敬亭山(獨り敬亭山に坐す) 李白 三七

送友人(友人を送る) 李白 三八

秋浦歌(秋浦の歌) 李白 三九

贈王倫(王倫に贈る) 李白 三〇

早發白帝城(早に白帝城を發す) 李白 三一

邯鄲少年行 高適 三三

除夜作(除夜の作) 高適 三五

別董大(董大に別る) 高適 三六

田家春望(田家の春望) 高適 三七

南樓望(南樓の望め) 盧僊 三八

題破山寺後禪院(破山寺の後の禪

- 院いんに題だいす)……………常建じょうけん 三三九
- 釣魚ちようぎょ灣わん……………儲光義ちよこうぎ 三三〇
- 望嶽がく(嶽のぞを望む)……………杜甫とほ 三三一
- 春日憶李白(春日李白を憶う)……………杜甫 三三三
- 飲中八仙歌……………杜甫 三三五
- 兵車行……………杜甫 三三九
- 月夜……………杜甫 三四四
- 悲陳陶(陳陶を悲しむ)……………杜甫 三四五
- 春望……………杜甫 三四七
- 哀江頭(江頭を哀しむ)……………杜甫 三四八
- 羌村……………杜甫 三五二
- 彭衙行……………杜甫 三五四
- 曲江……………杜甫 三六〇
- 贈衛八處士(衛八處士に贈る)……………杜甫 三六一
- 石壕吏(石壕の吏)……………杜甫 三六四
- 月夜憶舍弟(月夜に舍弟を憶う)……………杜甫 三六八
- 江村……………杜甫 三六九
- 春夜喜雨(春夜雨を喜ぶ)……………杜甫 三七一
- 水檻遣心(水檻に心を遣る)……………杜甫 三七二
- 茅屋爲秋風所破歌(茅屋秋風の破る所と爲る歌)……………杜甫 三七三
- 聞官軍收河南河北(官軍の河南河北を収むるを聞く)……………杜甫 三七七
- 絶句二首……………杜甫 三七八
- 旅夜書懷(旅夜懷いを書す)……………杜甫 三八〇
- 秋興……………杜甫 三八一
- 復愁(復た愁う)……………杜甫 三八三
- 登高……………杜甫 三八三

登岳陽樓(岳陽樓に登る)……………	杜甫 三六五
江南逢李龜年(江南にて李龜年に逢う)……………	杜甫 三六六
胡笳歌 送顏真卿使赴河隴	
(胡笳の歌 顏真卿が使いして河隴に赴くを送る)……………	岑參 三八八
逢入京使(京に入る使いに逢う)……………	岑參 三九〇
磧中作(磧中の作)……………	岑參 三九二
春夢……………	岑參 三九二
白雪歌 送武判官歸京(白雪歌 武判官の京に歸るを送る)……………	岑參 三九三